2026.3.26

# 卒業生の就業先調査　結果

**調査対象者**

令和６年度の本学介護福祉学科卒業生を採用した法人及び施設等の施設長、人事課長（11 施設・事業所）

**調査期間**

令和 7 年 12 月から令和 8 年 1 月

**調査票回収数・回収率**

回収数　11 通（施設・事業所）

回収率　100.0％

## １．施設・事業所の属性

施設･事業所の種別は、特別養護老人ホームが 3 件（27％）で最も多く、次いで介護老人保健施設 2 件（18％）、地域密着型特別養護老人ホーム、高齢者デイサービス・デイケア、高齢者ショートステイ、訪問介護事業所、障害者支援施設、病院、その他が各 1 件（9％）であった。（複数回答）

施設･事業所の運営主体は、社会福祉法人が最も多く 8 件（73％）で、次いで医療法人 2 件（18％）、独立行政法人 1 件（9％）あった。

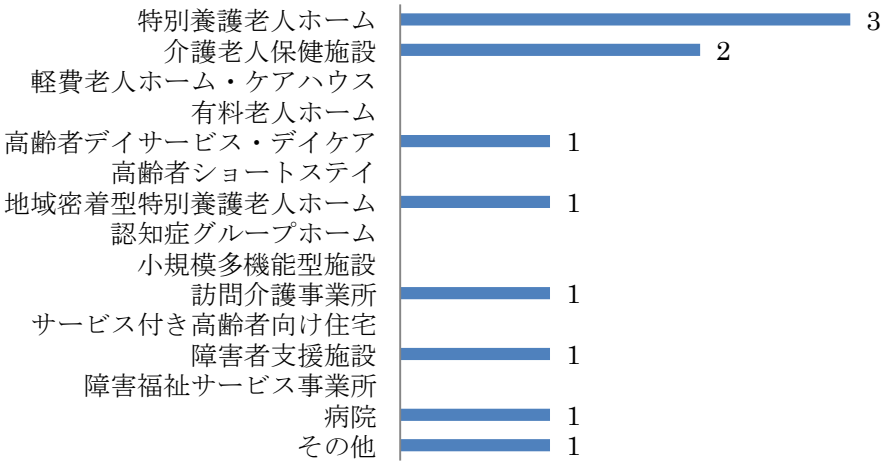



**図１．施設・事業所の種別（複数回答）**

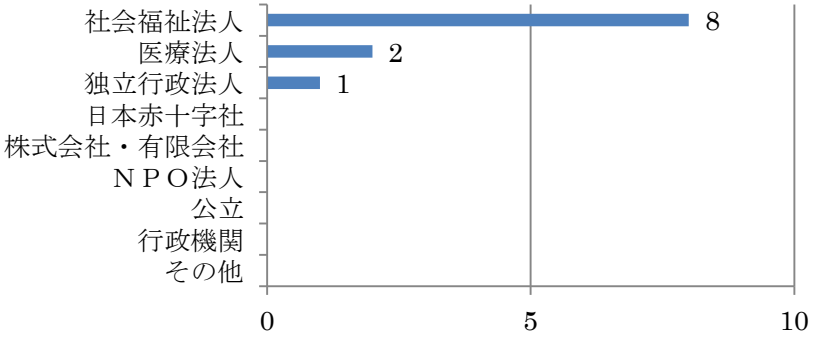



**図２．運営主体（ｎ=11）**

## ２．卒業生の雇用状況

令和 6 年度採用の本学卒業生の職種について回答を得た。

| 職　種 | 男性 | 女性 | 計 |
|---|---|---|---|
| ケアワーカー（介護職） | 1 | 11 | 12 |
| その他 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 1 | 11 | 12 |

## ３．採用理由（複数回答）

本学卒業生を採用した理由として最も多かったのは、「介護福祉士の資格を取得している」、「将来性が期待できる」で各 10 件（91%）であった。

次いで、「基礎学力がある」「人間的に魅力を感じる」各 8 件（73%）、「コミュニケーション力がある」6 件（55%）、「本学卒業生の実力は評価できる」5 件（45%）であった。

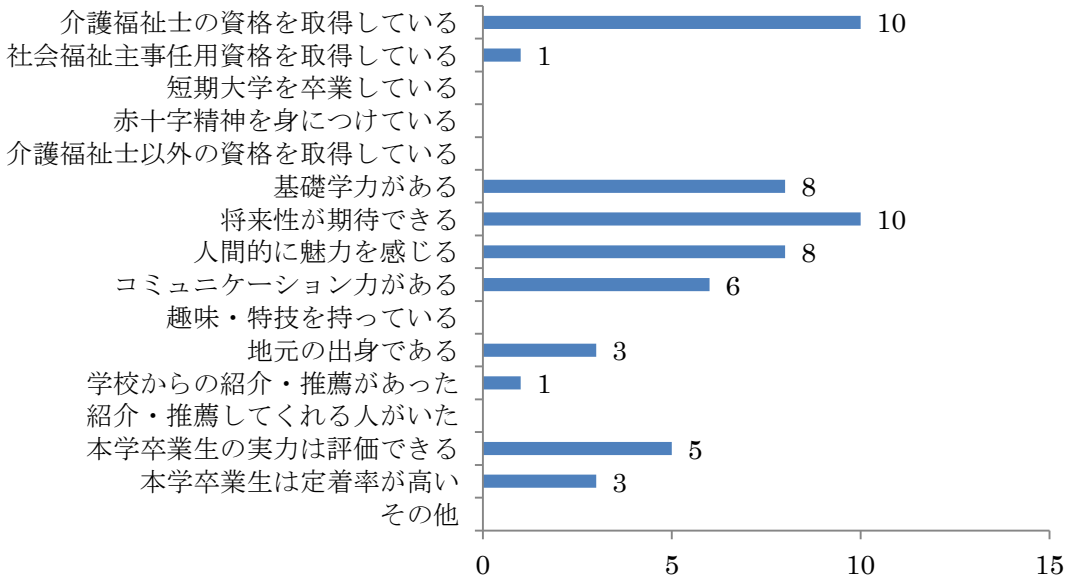



図３．本学卒業生を採用した理由（複数回答）

## ４．今後の採用意向

「今後も本学卒業生を採用したいと思うか」という質問に対し、「そう思う」が 11 件（100%）であった。

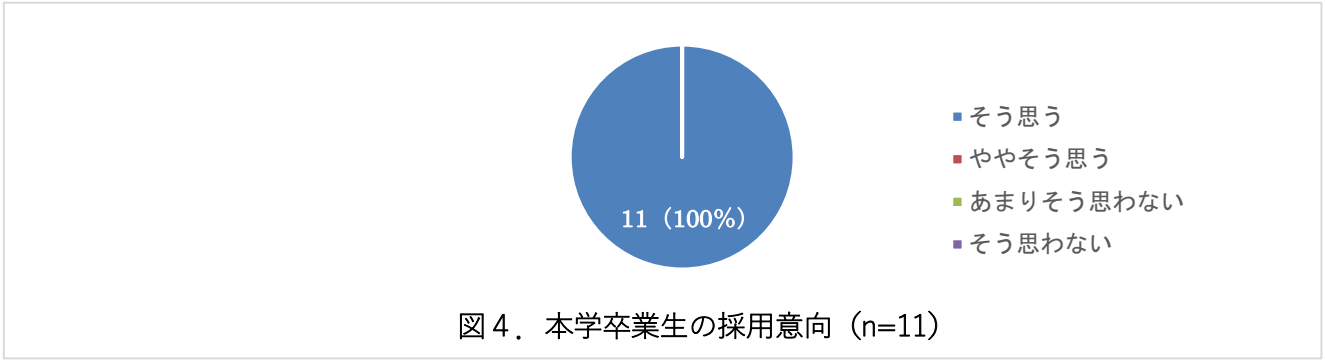



図４．本学卒業生の採用意向（n=11）

## ５．卒業生のへの評価

「本学卒業生が施設・事業所が求める人材ニーズや期待に応えているか」という質問に対し、「応えている」が 8 件(73%)、「どちらかといえば応えている」が 3 件（27%）であった。

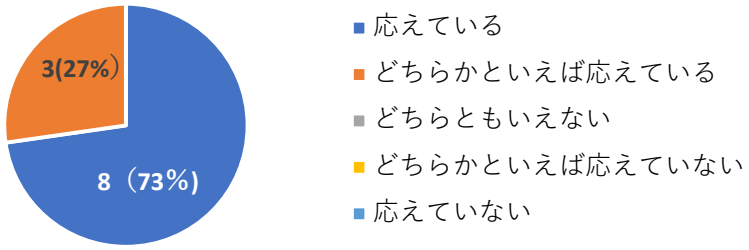



図５．人材ニーズや期待に応えているか（n＝11）

## ６．職務遂行能力

本学卒業生の職務を遂行する能力や意識の水準については、「高いと感じる」5 件（45%）、「どちらかといえば高いと感じる」4 件（36%）、「どちらともいえない」2 件（18%）であった。

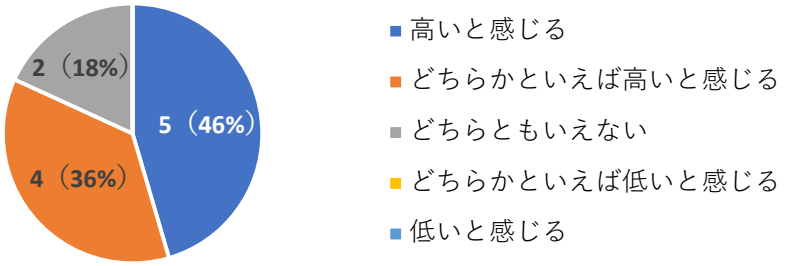



図６．職務遂行能力・意識（n＝11）

## ７．卒業生が身に着けている能力

本学卒業生が、図７に示した能力等(16 項目)を身につけているかどうかについて、「(身に着けていると)思う」から「(身に着けていると)思わない」までの５件法で回答を求めた。

「思う」が最も多かった項目は「基礎的知識や基礎学力」「身だしなみや言葉遣いなどの社会常識」6 件（55%）であった。次いで「専門的知識・技術」「協調性、コミュニケーション能力」が各 5 件（45%)、「人の痛みや苦しみに共感できる完成」「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」「相手を尊重した責任ある行為」が各４件（36%）であった。

「思う」「やや思う」を合わせて 100%になった項目は「基礎的知識や基礎能力」であった。

「どちらともいえない」が多かった項目は「リーダーシップ、指導力」6 件（55%)、「ＩＴの知識やスキル」「調査、分析、報告の能力」「自己研鑽を重ねていく姿勢」各 5 件（45%）であった。

「思わない」や「あまり思わない」との回答があった項目が 16 項目中 12 項目あった。特に、「リーダーシップ、指導力」についての評価が極めて低いという結果であった。

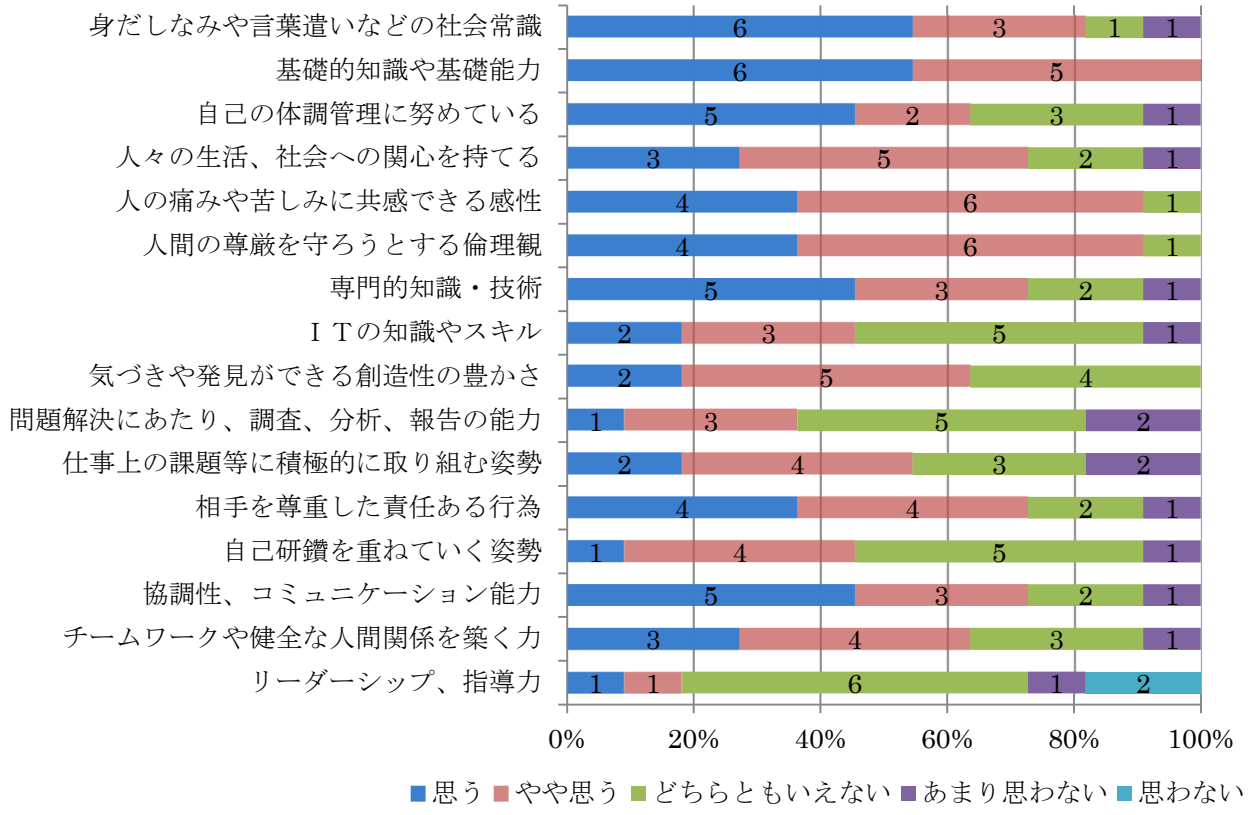



図７．本学卒業生が身につけていると思う能力（ｎ=11）

## ８．施設・事業所における重要視の度合い

前述の 16 項目の能力等を各施設･事業所がどの程度重要視しているのかについて、「重視している」から「重視していない」までの５件法で回答を求めた。

「重視している」が最も多い項目は「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」９件（82%）、次いで「人の痛みや苦しみに共感できる感性」、「チームワークや健全な人間関係を築く力」各８件（73%）、「身だしなみや言葉遣いなどの社会常識」「気づきや発見ができる創造性の豊かさ」「相手を尊重した責任ある行為」「協調性、コミュニケーション能力」各７件（64%）であった。

「重視している」と「やや重視している」とを合わせた割合が最も低かった項目は「IT の知識やスキル」で５件（45%）、次いで、「専門的知識・技術」が７件（64%）であった。

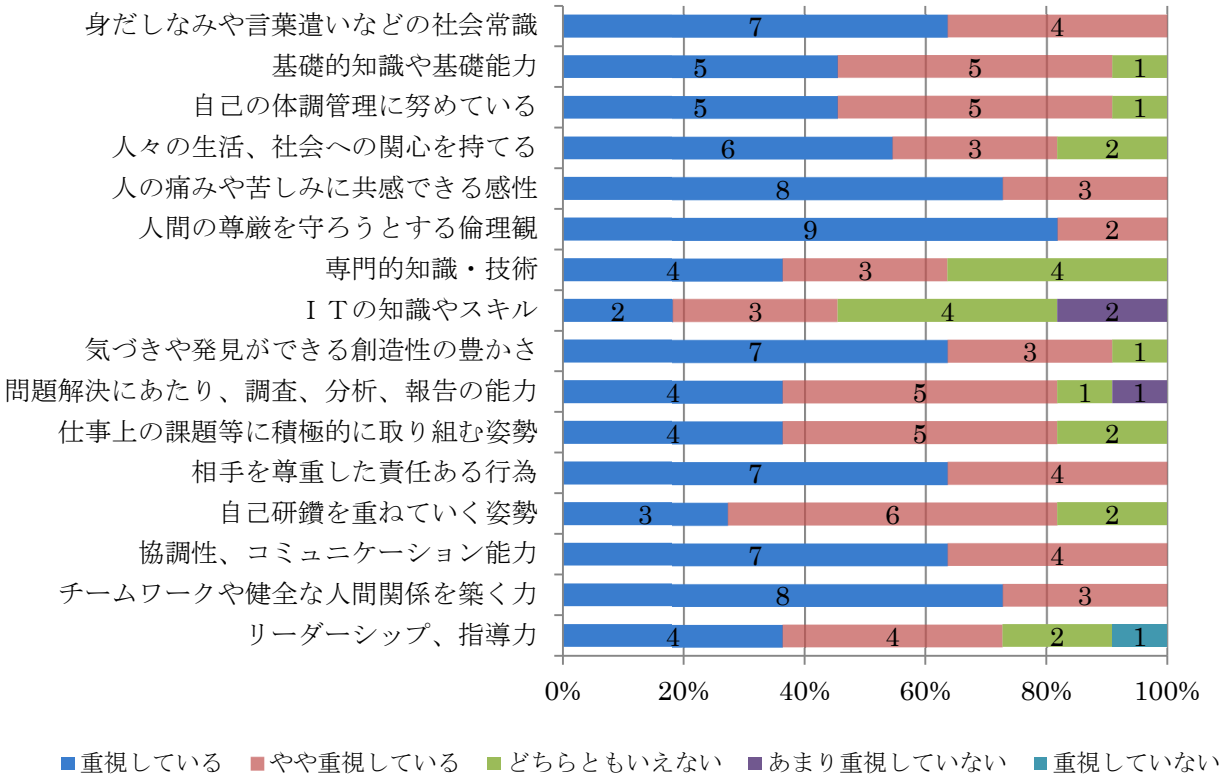



図８．施設・事業所における重要度（ｎ=11）

## ９．本学の教育活動について

本学の教育活動についてどのように感じるかについて回答を求めたところ、「高く評価できる」7 件（64%）、「ある程度評価できる」4 件（36%）であった。（図９）

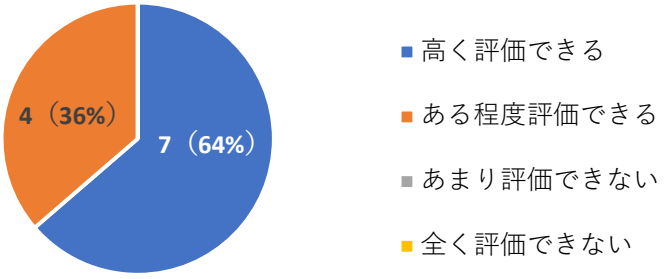



図９．本学の教育活動についての評価（n ＝11）

上記のように感じる理由について自由記述にて尋ねたところ、「高く評価できる」では 7 件中の 7 件から、「ある程度評価できる」では 4 件中 2 件から回答があった。

### １）「高く評価できる」理由

| |
|---|
| ・すべてにおいて基本がしっかり身に付いているように思う。 |
| ・教職員の質の高さ |
| ・実習や講義を通して現場で必要な知識や姿勢を具体的に学んでいる。 |
| ・貴学ご出身の卒業生数名が当施設に就職し、日々活躍しております。専門的知識と業務に取り組む姿勢は当施設の業務に大変貢献しており、貴学の教育活動の賜物だと感じております。 |
| ・学生数が少ないのは残念ですが、その分、教諭と学生のコミュニケーションが密に図られていると感じます。また、学生一人ひとりの特性に合わせた指導により、能力に応じた最大限の配慮がされていると思います。 |
| ・利用者への尊厳ある対応やチームワークを大切にする姿勢が身についています。これは大学での教育活動が単なる技術習得にとどまらず、人間性や倫理観の育成に力を入れている証拠だと評価しております。 |
| ・チームワークや人間関係の構築、人の尊厳や相手を尊重した行動ができる。 |

### ２）「ある程度評価できる」理由

| |
|---|
| ・介護実習で現場を体験しているので、就職してもスムーズに入りやすいように思います。利用者・職員とのコミュニケーションの取り方、記録も十分できているように感じます。 |
| ・最近の学生がコミュニケーションが苦手と理解したうえで取り組んでいる。情報提供もしてくださる。 |

## １０．本学への期待

本学への期待について、13 項目を設定し、その中から「期待する」項目について複数回答にて回答を得た。さらに、「期待する」項目の中でも「最も期待する」項目について１つ回答を求めた。

本学へ期待することとして最も多く挙げられた項目が「コミュニケーション能力を高める教育の充実」「常識、マナーを身につけるための教育の充実」が各 7 件（64%）であった。次いで「基礎学力を高める教育の充実」6 件（55%）、「専門性を高める教育の充実」5 件（45%）であった。（図 10）

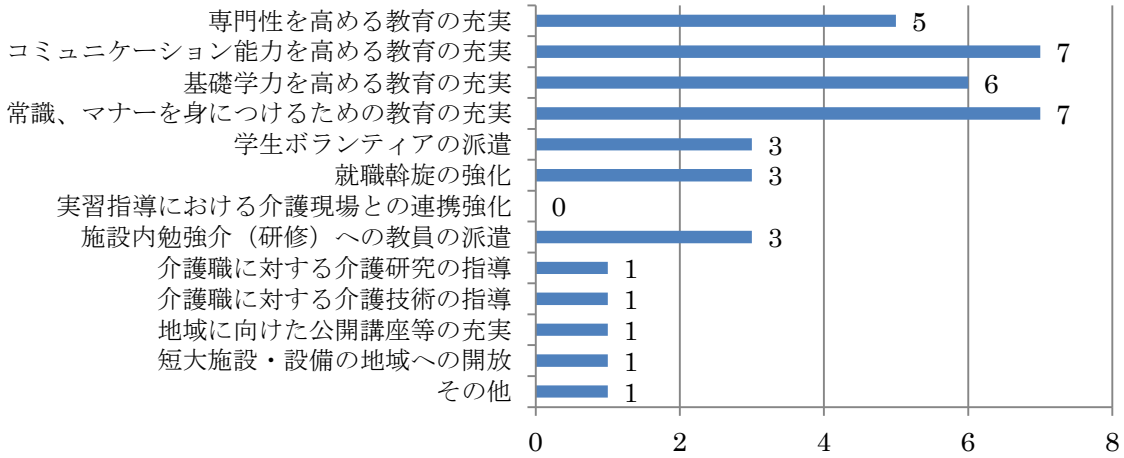



**図10. 本学に期待すること（複数回答）**

また、「期待する」とした項目の中で「最も期待すること」を１つ選んでもらったところ、６件の回答があった。最も多かった項目は「コミュニケーション能力を高める教育の充実」、「常識、マナーを身につけるための教育の充実」で各 2 件（18%）。次いで「基礎学力を高める教育の充実」、「介護職に対する介護研究の指導」、「その他」が各 1 件（9%）であった。（図 11）

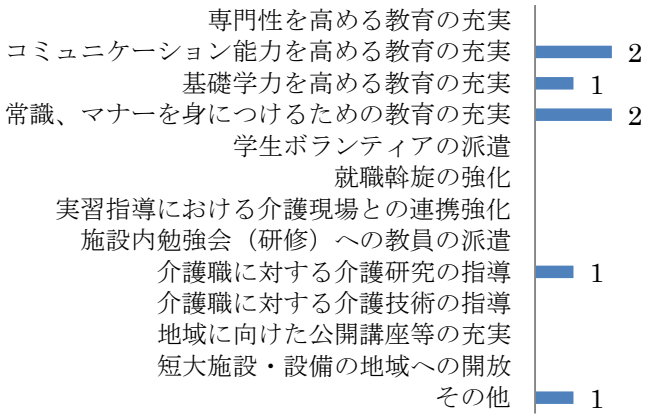



**図11. 本学に最も期待すること（ｎ＝11）**

「その他」への回答

| |
|---|
| ・学生数をどうにかして増やすことが将来の学校運営、延いては施設運営（介護職員（担い手）確保）の持続可能性を左右することは言うまでもない。貴校に限らず、県の教育･福祉関係機関が、小学･中学･高等学校への出張講座等を実施し、子どもたちが「介護」に触れる機会を増やしてもらいたい。その取り組みの先に、職業の選択肢として「介護福祉業」が上位に残る未来を期待したい。 |

## １１．本学への意見・要望

本学への意見･要望について自由記述による回答を求めたところ、2 件の回答があった。

| |
|---|
| ･学生との面談で、本当に福祉の仕事に就きたいのか、確認してほしいです。就職後のモチベーション、周囲の職員のモチベーション低下につながります。 |
| ･当施設に入職した卒業生は、介護福祉士としての専門知識と技術を基礎からしっかり身につけており、現場で即戦力として活躍しております。引き続き就職斡旋の強化をお願いしたい。時に、入職する前よりメンタルヘルスで悩みを抱えている方も見受けられます。数年（数ヶ月）で退職する場合もあり、入職前にそういった情報が分かれば、施設としても配属先等を検討出来るので、よろしくお願いします。 |

以上